

平成29年度第1回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

平成29年8月4日(金)
午後3時から午後5時まで
県庁4号館4階委員会室

(事務局から国及び本県の現状の説明後)

協議 「本県の社会教育の現状(自由討議)」

- 議長 説明にありました国の現状、宮崎県の現状の説明を受けて、何か質問やご意見等ないでしょうか。
- 昨日、教育委員の研修会は「キャリア教育をとおしてどう人材を育てるか」でした。産官学の立場からどう子どもを育てるのか事例発表がありました。それぞれの実践がうまくかみ合えばこれからを担う人材が、保幼小中高を通じて地元に残る青年が育つのではないかという熱い議論がなされました。
- 今日は社会教育の面から、例えば公民館、あるいは各団体、行政等の中でどう人材を育てるか、今日は団体の方が来られているので、先ほどの説明を受けて、今の団体等での活動の中で、どういう状況なのか、今回は第1回なので、今期のテーマを絞ることはできないので、意見を出しっぱなしでもいいかと思えます。
- 現状の宮崎の状況をしっかり把握したうえで、それではどうするかということになるので、各団体の立場からぜひ紹介や意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。
- 委員 少子高齢化というのは現実ですし、人口減少も現実。私たちはその中に突入をしています。では、私たちが目指す人材というのは、目指すところを変える必要があるのではと最近思います。公民館の施設の増減とか、関わっている人の増減を比較するということが、自体、人口も減っているので無理があります。今、幸福度ランキングとか満足度ランキングとかのように、指数も数字ではなくなってきました。概念的にどうだったか、どのように感じたか、そういうものが人材育成に使われてきているので、私たちの人材育成というのはこれから成熟を目指さないといけないと思います。成熟こそが生き残りというのは大き過ぎますが、方向性としてあっているのではないかと思います。その中では、多い少ないというのではなく、一人一人がどれだけ関わったかという、量で表すのではなく、心の指数という視点が加わっての人材育成を行っていくのがよりいいのではないかと最近感じています。
- 委員 西都は公民館が134館ありますが、構成が成り立たない状態になっています。例えば、高齢者だけになっているとか、高齢者の中で館長を選ぶのも無理になってきているというところがあります。しかし、街の真ん中の人口の多いところには、公民館活動には加わらない人がいっぱいいます。その差をどうしたらいいかといろいろ考えています。しかも、地域づくりは校区ごとで構成されていて、いろいろ行事を組むが参加者が減ってきています。この前の公民館の研修で、リーダーを若いうちから育てることを積極的に取り組んでいる事例があり、いいことだと考えています。ひとつテーマを絞ったような集まりを行い、若いときから、地元に住んでいる人の中から、そういう人を育てる手立てをしないといけないと思っています。
- 地域づくりを公民館活動が中心に行うとすると年配の人が中心で若い人が参加しない

ので、掘り起こしていかないと先細りになるばかりです。公民館を中心に、若いうちから地域でリーダーを育てるような組織をつくるというようなかたちを作れば、少しは展望が開けるのではないかと考えています。

委員 小・中・高校生や若者の地域に根差したリーダー養成を行えるのが、「子ども会育成会」だと思います。子ども会育成会は”子ども”育成ではなく”子ども会”育成会ですから。”子ども会”は子どもたちが話し合っ、予算立てを含む企画から実践・反省までをするのが基本の活動です。まさに文部科学省が言う「アクティブ・ラーニング」を昔から地域でやっているわけです。”子ども会”には支援する地域の大人たちの”育成会”が必ずつきます。保護者だけでなく自治会長をはじめ地域の人はみんな育成者……。子どものうちから自治意識と郷土愛が生まれ、関わる大人たちも交流と学び合いが進むような仕組みを作れば……と思います。

地域の活性化に、この団体を利用する手が一番と思われませんが、文科省が重視しない理由に・・・東京の60万人の子どものうち、わずか5万人しか子ども会を経験しない！という事実があるからだと思います。全国子ども会連合では反省に基づき、”子ども会は何なのか”を広く伝えていこうとしているところです。

議長 子ども会の実態ですが、中学生も含めて子ども会に入っているのかどうか、各市町村子ども会が全て結成されているかどうか意見がある方いらっしゃいますか。

委員 中学生はごくわずかです。衰退した原因はPTAと子ども会育成会の混同視が原因だと思います。PTAには学校全体のPTAとクラスPTA、あるいは学年PTA、もう一つ地域PTAがあります。その”地域PTA”と”子ども会育成会”が混同されていることによって、子ども会に直接関わる大人が現役保護者だけになっています。

委員 地域子ども会が本来の子ども会だったのですが、時代の変化とともにPTAがPTA子ども会になってしまったと思います。PTAは小学校と中学校があるけれども小学校だけのPTAの役員さんが中心になって子ども会に関わるというような感じが出てきて、PTA主体の子ども会になってしまった結果、小学生だけが対象となって中学生がどんどん少なくなってきたと思います。

別件ですが、今後の課題として地域コミュニティの衰退というのが出ています。先ほど公民館、地域の方は公民館活動でもなかなか参加が難しいと言われましたが、社会教育で言えば、公民館とのつながりは非常に大切だと思います。例えば宮崎市でも自治会加入率が半分以下になっています。その中で、街づくりとか人づくりとか、地域コミュニティをどう再生していくかが今後の大きな課題だと思っています。災害とかいろいろな課題があると思いますが、それに対処していくのは地域の自治意識や連帯づくりだと思います。まさに地域づくりに向けた体制づくりとかそのための人材育成というテーマがいいと考えます。それが課題の一つだと思いました。

子どもたちの支援に関わるのは、学校支援地域本部、放課後子ども教室、土曜日の教育支援とかであり、学校外における子どもたちの健全育成や支援を地域で見守ったり支えていったりするようなシステムづくりが大きな課題ではないかと考えます。地域の子どもは地域で育てるそういう体制づくりを構築するかが大きな課題のような気がします。学校教育は学校で、学校外における子どもたちの教育は社会教育関係団体とか青少年団体とか関わっていくわけです。地域のみんなが子どもたちに関わる体制をどう作るかということも非常に大事な課題だと思います。

子どもたちの課題には貧困の問題もあるし、ネット依存の問題もあるしコミュニケーションの問題もあるが、これらを学校だけではなく社会教育の立場からアプローチしていくシステムが出来るといいなと思います。

議長 最も大事なところだと思います。次の世代の子どものためにどうすべきなのかという視点が一番大事なところだと思います。大人の活動の延長線には子どもがいます。子どものために自治公民館は、あるいは高齢者はこれでいいのかという反省に立つべきだと思います。やはり子どもを地域でどう育てるかは永遠の課題であるし、特に今、家庭の日を推進しているが、なかなか地についた活動になっていないという現状もあります。

それでは、今期はどのテーマを中心に話を進めるかで進めていきたいと思いますので、いろんな意見を出していただきたいと思います。地域のこと学校支援のことも出ました。子ども会のこともありましたけども他に何かPTAはいかがでしょう。

委員 人材育成の話で、子ども会で活動している人がそのまま地域の活動につながっていけばいいと思っています。宮崎市では中学校区で成人式を行っています。毎年、成人になる子どもたちが実行委員として5、6人入ってきます。その子どもたちは、ほとんど小学校で子ども会に入っていた子どもたちです。地域で子どもたちを育てるような方法があればいいなと常々思っています。

先ほど放課後子ども教室が学校主体となっているという意見がありましたが、目的としては学校に地域の人たちをよんで子どもたちを育てることです。江平小では、OBの方が毎週水曜日関わっています。夏休みは公立大の学生が勉強を教えたりしています。それが、学校だけでなく地域を巻き込んだ放課後子ども教室になっていると思います。

議長 地域で子どもを育てる一つの事例で綾町を紹介します。三世代ふれあい授業をしました。小中学生26名でグランドゴルフをしてかき氷を食べました。それが30年間続いています。地区の人はフルネームですべての子どもを知っています。花植え、スポーツ、あいさつ運動をしています。地域の中で子どもを育てています。

自治公民館の組織がしっかりしているので、組織がしっかりしていれば子どもが育ちリーダーも育ちます。柔軟なプラットフォームがしっかりしていれば、人材も育ち子どもも育ちます。社会教育の問題として組織がどこを基盤として活動するかが大事です。綾町は子どもが増えています。それは社会教育の成果です。社会教育は地方創生の最たるものです。ユネスコエコパークも自治公民館が中心となり認定されました。組織をしっかりしていかに取り組むかが大事だと思います。

委員 学校・家庭・地域が連携した取組の中の地域全体で子どもの学びを支援する学びとはどういうものか。中身を教えてください。

事務局 学校の中での授業としての学びに加えて、地域の方々の得意分野を活かしたり、子どもたちが地域で学んだりということです。

委員 学校の学びを支援することはしやすいし、地域も協力しやすい。社会教育では子どもたちは何の学びが必要なのか。社会体験や自然体験やコミュニケーション能力の育成を補完するような学びの機会の場の提供であるとよいと思います。学校の学びを支援する色が強くなると学校教育の範疇（はんちゅう）になるので、地域の問題を解決する気持ちにならなくなります。

委員 学校地域支援本部事業を文科省が打ち出した当時から、「学校の先生へのお手伝いじゃないか」という声が多くあり協力がなかなか得られなかった。大人たちで準備してお膳立てされた体験活動……学びの中で”子どもはお客さん”になっています。子どもたち自ら何がしたいか……子どもたち自身で企画運営をし創造性を育めるようなものが重要です。

九州では児童会も機能していない小学校が多い……、子どもたちが自ら、自分たちについて考え、自治意識を高められるようなことが学校教育でもなくなってきました。よその県を研究して児童会活動を復活させた方が良く、私の小学生時代のように、小学生の時から自分たちのリーダーを自分たちで選ぶ経験ができるようにしたほうが良いと思います。

委員 学校は地域からたくさんのメリットをもらっています。それが地域の課題解決につながっているのが課題です。双方向のメリットがあればいいが、学校だけがメリットをもらっているような気がしています。

学校に来てくれた人たちをどうキャリア教育に活かすかが課題の一つです。また、本校で実施した家庭教育サポートプログラムに地域の人を入れなかったことが私の反省です。併せて、地域と学校の協働について、どのような活動をしたらいいかを模索中です。

委員 学校の大きさによってPTAの中身も違うのではないかと気がしています。今、私の地区では学校、学級、地区のPTAをつないでいける活動をしています。子ども会も機能している方だと考えています。しかし、ラジオ体操もなくなっている中、街づくり協議会を立ち上げて大きな活動をすることもいいが、公民館単位で地域の方との交流ができるといいと考えています。

学校を離れても学びがあるということを感じるのがサポートプログラムであると思っています。

委員 価値観の多様化の中で教育のやり方も変えていかなければならないと思います。教育とは人間力を高めることだと思います。知識、経験、常識を育成することが教育だと思います。子どもが何を学びたいか大人が何を教えたいかのパブリックコメントをとって集約し、教育のプランニングをして、実行できないかと思いました。

委員 社会教育は人づくりを大切にすることであると感じました。ガールスカウトは人づくりを行ってきています。地域の課題を自ら考えるプログラムを行ってしています。

委員 地域で子どもを見守り支援するという大人向けの呼びかけも必要ではないかと思っています。子どもに声をかけられる大人をつくるような地域をつくることによって子どもとのつながりが自然とできていき、会話のできる地域になると思います。

地域の大人たちが子どもたちに関心を持ち見守るといったような地域づくりという提言ができるといいと思っています。

議長 定刻になりました。

今日は、いろんな御意見を出して頂きました。

次回は、今日の意見を集約しながら、今期、どういうテーマで協議をするか、焦点を絞った中で、議論をしていきたいと思っています。これで、協議を終わります。